

外来種 の脅威

在来種
の脅威

がいらいしゅ

きょうい

ざいらいしゅ

から見た

日本の在来種を守るのはキミだ！！
外来種の知識を付けて、
在来種の絶滅を阻止せよ！！
これはみんなへのミッションなのだ！！

在外種 の脅威

ざいらいしゆ
がいらいしゆ
から見た

この世界には多くの生物が存在し、生きている。

まだまだ発見されていない生物も存在し、

ぜつめつ
絶滅していく生物もいる。

これまで、交わることの無かった生物たち。

ざいらいしゅ　がいらいしゅ
それらは、在来種と外来種という関係を持つ。

お互いにエサや場所を奪い合い、生きのびる。

本当なら、この関係が生まれることは無かった。

全ては、人間の勝手な行動によって始まった問題だ。

これからも絶滅していく生物を減らす為に、

生きる僕たちが責任を持たなくてはならない。

日本の在来種を守るのは、キミだ！

制作者



ーもくじー

- ・プロローグ ······ p1
- ・外来種の定義 ······ p3
- ・特定外来種とは? ······ p4
- No. 1 アカボシゴマダラ ······ p5
- No. 2 アフリカツメガエル ······ p6
- No. 3 アメリカザリガニ ······ p7~8
- No. 4 アメリカナマズ ······ p9
- No. 5 アライグマ ······ p10
- No. 6 ウシガエル ······ p11~12
- No. 7 オオヒキガエル ······ p13
- No. 8 オオクチバス ······ p14
- No. 9 カダヤシ ······ p15
- No. 10 カミツキガメ ······ p16
- No. 11 クサガメ ······ p17~18
- No. 12 クビアカツヤカミキリ ··· p19
- No. 13 グリーンアノール ······ p20
- No. 14 コイ ······ p21
- No. 15 シロツメクサ ······ p22
- No. 16 スクミリングガイ ······ p23
- No. 17 セアカゴケグモ ······ p24
- No. 18 ハクビシン ······ p25
- No. 19 ハクレン ······ p26
- No. 20 ヒアリ ······ p27~28
- No. 21 ブルーギル ······ p29~30
- No. 22 ミシシッピアカミミガメ p31~32
- No. 23 マングース ······ p33
- 番外. マメコガネ ······ p34
- ・まとめ ······ p35
- ・伝えたいこと ······ p36

きっと見たことが
ある生き物だ!!



そもそも外来種って何だろう？

がいらいしゅ

外来種は人の手によつて持ち込まれ、もともと生息していなかつた地域に入り込んだ生物のことと言います。

持ち込まれる理由は色々あり、食べるため、ほかの生物の駆除のため、ペットとして、たまたま付いてきた、などの理由があります。

外来種は繁殖する能力がた高く、在来

種の生息に悪い影響をもたらしています。

また、農作物の被害や、感染症のような病気を広める、家の屋根の裏に住み着き、人の生活に被害をもたらすこともあります。



・駆除のため



・ペットとして



・食用（食べるため）



外国から来る船にたまたまついていて、日本に定着する場合もあります。

外来種の中でも！

特定外来生物とは？

「特定外来生物」とは、**外来生物（海外起源の外来種）**であつて、**生態系**、人の生命・身体、農林水産業へ**被害**を及ぼすもの、または**及ぼすおそれがあるもの**の中から指定されます。

特定外来生物は、生きているものに限られており、**個体**だけではなく、卵、種子、**器官**なども含まれます。

特定外来生物は飼育、栽培、保管及び運搬するところが原則禁止されています。加えて野外に放つ、販売する、他の人に渡すことも原則禁止されています。特定外来生物を飼育する場合は環境省に許可を得る必要があります。許可を受けて飼育などをする場合、特定外来生物ごとにあらかじめ決められた「**特定飼養等施設**」内のみでしか飼育などできません。

飼育する時の注意 (一部紹介)



※1 飼育するケージなどは、壊されない頑丈なものにしましょう。



※2 ケージには鍵をかけ、空気穴は脱走できない大きさにしましょう。

特定外来生物を見つけた時の注意



例：カミツキガメ

見つけても、**生きたまま**持ち帰ってはいけません。見つけたり、捕まえてしまった場合は、その場の管理者などに相談しましょう。

アカボシゴマダラチヨウ

Hestina assimilis



チョウ目タテハチョウ科
全長：40~53mm

原産地：東アジア

大型のタテハチョウ。夏型と春型では模様が異なり、夏型には、赤い斑紋があり、春型には無い。日本国内では奄美大島・徳之島に自然分布するのみであったが、90年代以降、人為的に放蝶され、首都圏を中心とした関東でも普通に観察できるチョウとなった。2018年に、特定外来種に指定された。



オオムラサキ



オオムラサキの幼虫とアカボシゴマダラの幼虫はよく似ている。

幼虫の食草はエノキであり、同じエノキを食草とする在来種のオオムラサキやゴマダラチヨウとの環境の奪い合いが予測されます。オオムラサキは、日本を象徴するチョウである、「国蝶」に1957年に選ばれました。

在来種への影響は？

アフリカツメガエル

Xenopus laevis



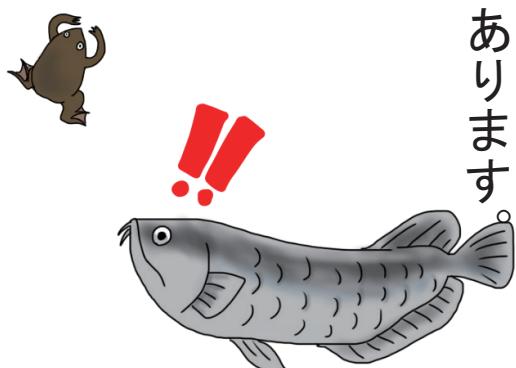
・アルビノ個体
色素が薄い個体がまれに生まれる。

無尾目ピッパ科

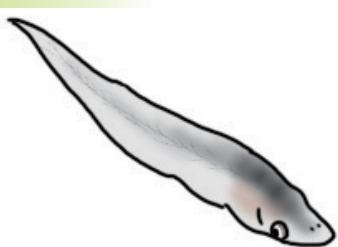
全長：6~13cm

原産地：南アフリカ

成体は平らな体を持ち、完全な水生で、一生の間、陸に上がるこ
とはない。オタマジャクシはナマズに似、魚類のような姿をしている。
日本には1945年に江ノ島水族館で飼育されたのが最初であるが、
飼育が容易で季節を問わずホルモン注射により産卵させられることか
ら、60年代以降、実験動物として大量に輸入された。



アロワナなどの肉食魚が好む



オタマジャクシは魚に似ている

アフリカツメガエルは自然界に生息している数は、他の外来種と比較すると少ない方と言えます。しかし、和歌山県や静岡県では定着が確認されており、静岡県では養殖鯉の子魚にたいする食害が生じています。

実験以外にも、ペットのエサとして、お店で販売されていることもあります。

在来種への影響は？

アメリカザリガニ

Procambarus clarkii



十脚目アメリカザリガニ科 原産地：北アメリカ

全長：8~15cm

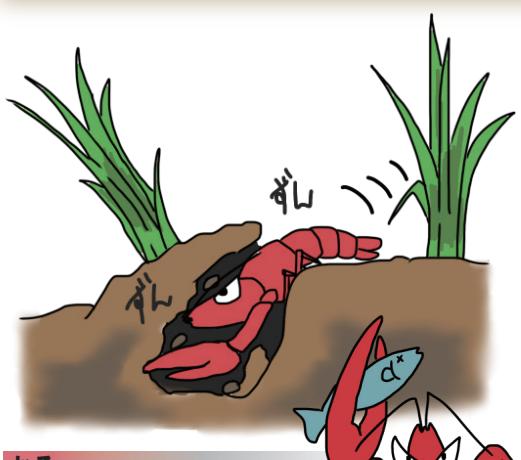
すいでん すいろ かせん いけぬま しつち さまざま みずべかんきょう
水田、水路、河川、池沼、湿地など様々な水辺環境に生息する。

しょうわしょき かながわけん いにゅう
昭和初期にウシガエルのエサとして神奈川県に移入され、のちに

ぜんこくかくち ざつしょくせい はんしょくりょく
全国各地に広がった。雑食性で繁殖力が高く、田んぼのイネを食

べるなど農業に被害をもたらしている。多種多様の動植物を食害し、

せいたいけい かいめつ
水辺生態系を文字通り壊滅させてしまうこともある。



おそ 恐ろしき成体

アメリカザリガニは天敵
が少ないため、他の生物を全て
食べ尽くし、ザリガニだけの
環境ができることがある。

への被害も出ています。

アメリカザリガニは言わずと知れ
た日本に定着したアメリカ原産のザ
リガニです。雑食性で何でも食べる
ため、在来種の生息環境を多く奪っ
ています。トンボの幼虫であるヤゴ
や、ゲンゴロウといった水生昆虫へ
の被害が大きくなっています。ま
た、田畠に穴を掘るため、農作物

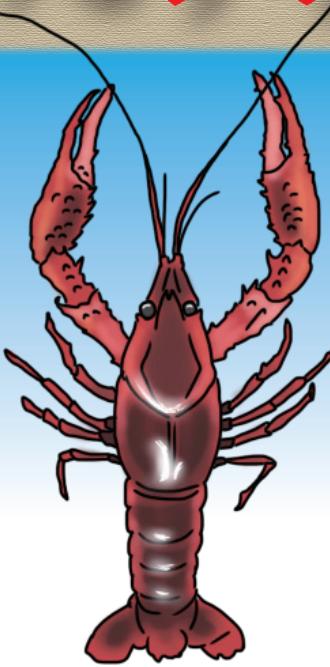
アメリカザリガニは言わずと知れ
た日本に定着したアメリカ原産のザ
リガニです。雑食性で何でも食べる
ため、在来種の生息環境を多く奪っ
ています。トンボの幼虫であるヤゴ
や、ゲンゴロウといった水生昆虫へ
の被害が大きくなっています。ま
た、田畠に穴を掘るため、農作物

在来種への影響は？

日本に生息するザリガニ 3 選



・ウチダザリガニ



・アメリカザリガニ



・ニホンザリガニ

現在日本に生息しているザリガニは、
「アメリカザリガニ」だけではありません。
他にも、主に外来種である「ウチダザリガニ」と
在来のザリガニである「ニホンザリガニ」が生息しています。

-見分け方-

ザリガニの見分け方は大きく分けて
以下の3点です。

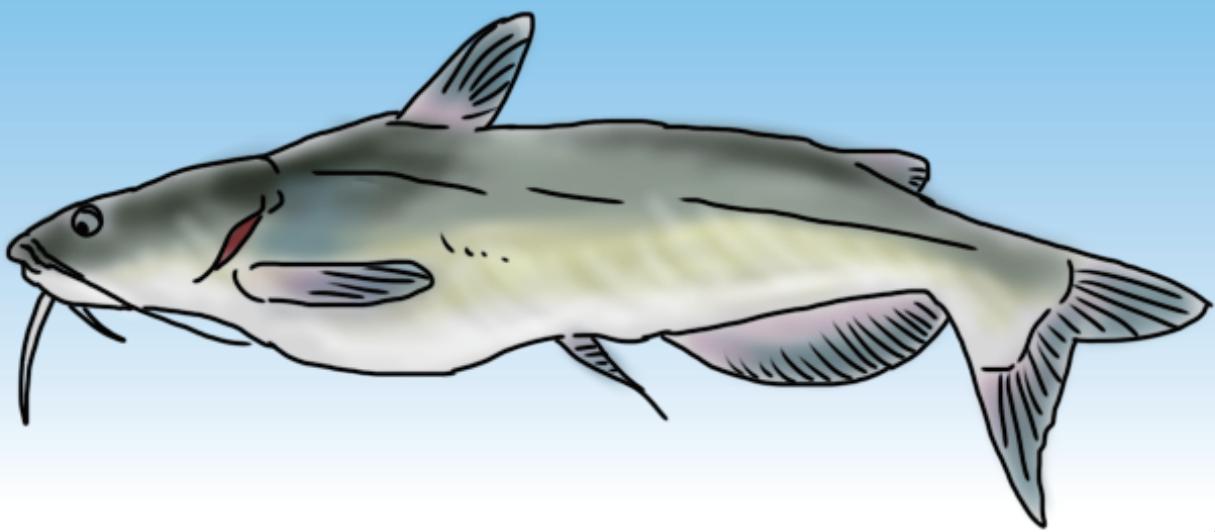
ウチダザリガニは、
日本に生息するザリガニ
の中で最も大きく、
ハサミの付け根に
白色の模様があります。

- ①大きさ
- ②ハサミの模様
- ③頭の形

ニホンザリガニは、
日本に生息するザリガニの中で
最も小さく、頭部が丸みを帯び
ています。
アメリカザリガニは、
全体的に色が赤く、ハサミにトゲ
があります。

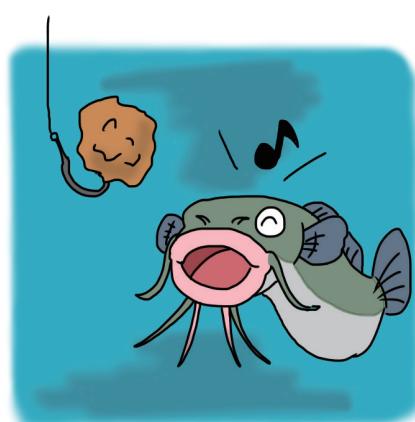
アメリカナマズ

Ictalurus punctatus



ナマズ目アメリカナマズ科 原産地：北アメリカ
全長：最大 132cm

和名は「チャネルキャットフィッシュ」。通称として「アメリカナマズ」と呼ばれている。体は細長く、日本のナマズほど平たくはない。湖沼、河川下流域に生息する。ヒレと胸ビレに極めて鋭いトゲを持っているために、捕食されにくい魚種である。日本へは1971年に導入後、霞ヶ浦に1981年頃に導入され1994年以降急激に増加した。



においに敏感なナマズ

においが強いものに反応する
ことがあります、「からあげ」や「サラミ」
でも釣れることがある。

アメリカでは食用としてよく利用されており、日本でも水産目的で導入されました。味も美味しく、釣りの対象としても人気があります。

大型になる上位捕食者で水域の様々な動物を捕食します。魚類だけでなく、甲殻類、貝類、水生昆虫、小型の哺乳類等も捕食することもあり、生態系への被害は大きいと言えます。

在来種への影響は？

アライグマ

Procyon lotor



肉食目アライグマ科
頭胴長：40~60cm

原産地：北アメリカ

1970年代、テレビアニメ「あらいぐまラスカル」の影響で、当時ペットとして多数の個体が輸入された。しかし、成長すると気が荒くなり、行動も立体的で激しくなる。飼いきれずに野外に放されるケースが多く、やがて全国に拡散した。動物から植物まで何でも食べる雑食性で、さまざまな環境に適応する能力も高い。



建物内の騒音の原因

アライグマによる最も大きな被害は農作物です。雑食性なため、小さな生き物なども食べますが、植物を食べることにより、他の在来種との食糧の奪い合いになります。さらにアライグマは建物への侵入もするため、比較的、人に対する被害の方が大きいと言えます。

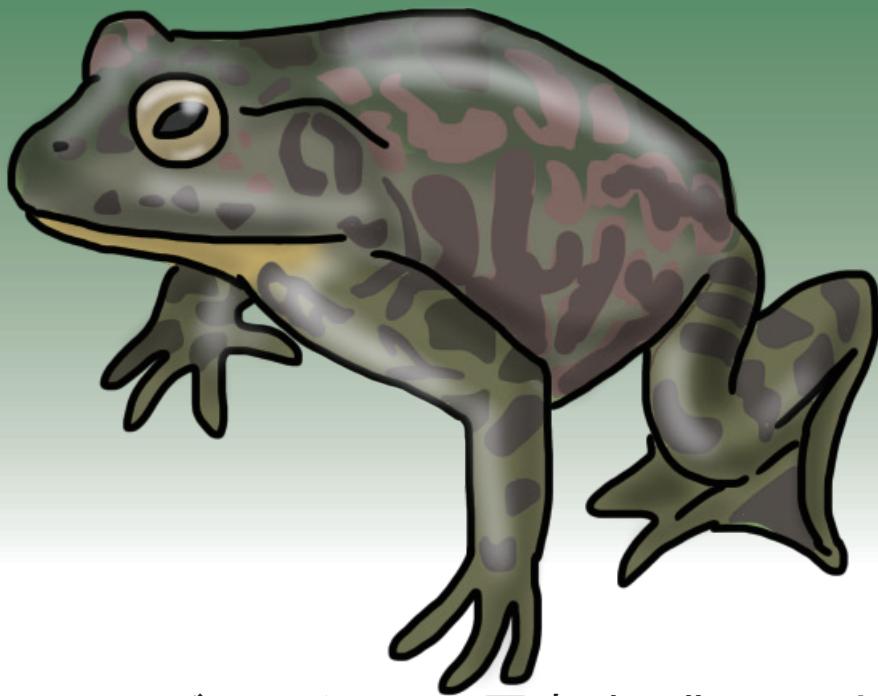


農作物への被害

在来種への影響は？

ウシガエル

Rana catesbeiana

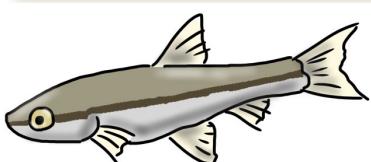


無尾目アカガエル科

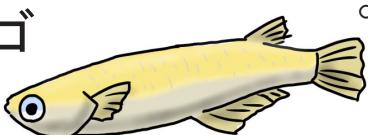
原産地：北アメリカ

全長：10~18cm

ウシに似た太い声で鳴くことが名前の由来。北アメリカでは最大のカエルで、食用として世界各国に持ち込まれた。食欲旺盛で、自身より小さいものは何でも口へ運び飲み込む。繁殖力も高く、各地では在来生物の生態系に大きな被害を与え、問題となっている。2005年に特定外来生物に指定された。



モツゴ



メダカ



天敵はいないのか？
カエルの天敵で代表的な
のがヘビ。隣の公園では

確認できたヘビも多摩川
台公園では確認できず、天敵はほぼ
いない。小さいオタマジャクシはザリガ
ニがギリギリ天敵となる。

ウシガエルのオタマジャクシは最大で約10cmほどあり、成体に似て雑食で非常に食欲が旺盛。多摩川台公園の池にはメダカやモツゴといった在来種もいる。この生物たちより巨大なオタマジャクシにエサを奪われる、または、成体のウシガエルに食べられることにより生存が難しい環境になつている。

在来種への影響は？

ウシガエルの生態



▲ここまでの大さであれば、一度、越冬したと考えても良い。成体になるのは時間の問題である。

多摩川台公園で確認したウシガエルのオタマジャクシ。全長は約10cm程まで成長していました。数も多く、他のカエルの成体やオタマジャクシは観察されませんでした。天敵である、ヘビなどの生体も観察されていません。



▲陸に上がりたてのウシガエルは、オタマジャクシとほぼ変わらない大きさである。

成体のウシガエルも数匹確認されましたが、警戒心が非常に強く、見つけたり、近づいたりすると、水中へ逃げてしまいます。唯一撮影に成功したのは、写真の一匹のみです。成体になりたての個体で、全長もオタマジャクシと差がほとんどありません。この大きさから最大約3倍まで成長すると思われます。



多摩川台公園

〒145-0071 東京都大田区田園調布1丁目63-1
TEL:03-3721-1951
住宅街の中にある緑の多い自然豊かな公園です。

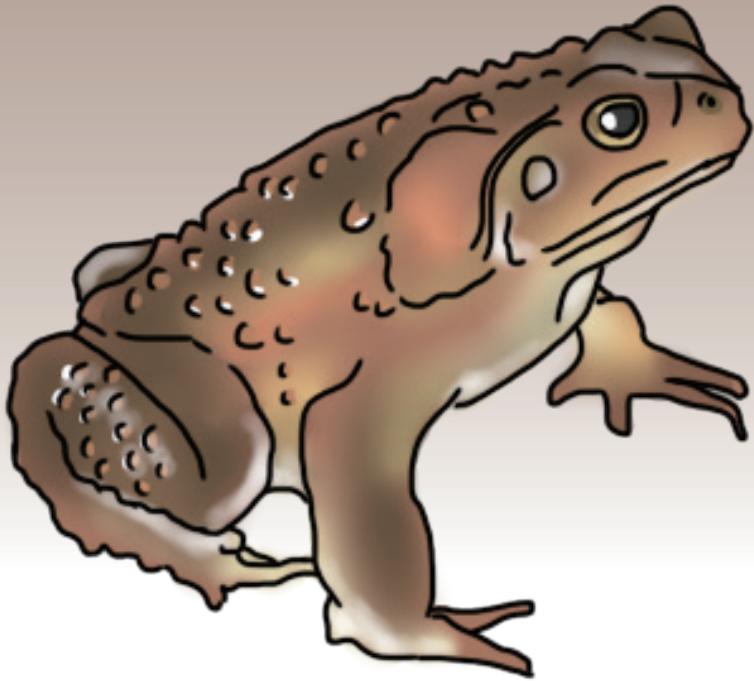
～観察の記録～



確認できた在来種は、エビ、メダカ、モツゴ、ドジョウ、ヤゴのみ。ほとんどがウシガエルのオタマジャクシとアメリカザリガニであった。

オオヒキガエル

Bufo marinus



無尾目 ヒキガエル科 原産地：アメリカ合衆国南部
全長：10~20cm ~南アメリカ大陸北部

大型のヒキガエル。開けた場所に生息する。オーストラリア、ハワイなどに害虫駆除目的で移入されたが、繁殖力が旺盛なことと、アルカノイドを主成分とする強力な毒を耳腺に持ち、危険な上に在来生態系に被害を与えることから各地で問題を引き起こしている。2005年に特定外来生物に指定された。

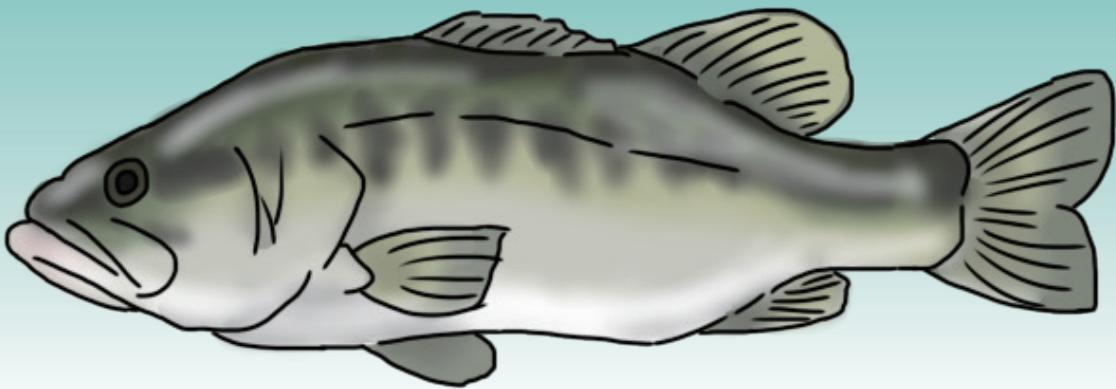


日本には小笠原諸島、大東諸島、八重山諸島にやはり、害虫駆除目的で移入されました。現在、分布はそれほど拡大していませんが、西表島では、イリオモテヤマネコや特別天然記念物であるカンムリワシ等への影響が懸念されています。サキシママダラが本種を呑み込んでいる最中に死亡した例が、実際に野外で観察されています。

在来種への影響は？

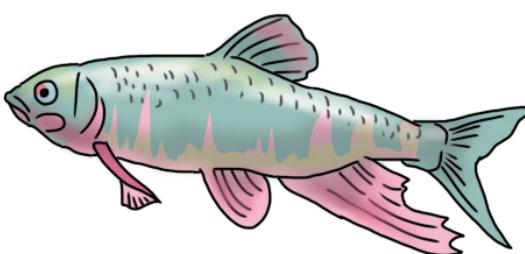
オオクチバス

Micropodus salmoides



スズキ目サンフィッシュ科 原産地：北アメリカ
全長：30~50cm

コクチバス、フロリダバスと合わせて「ブラックバス」と呼ばれる。日本の生息数はその中で最も多い。1925年、箱根の芦ノ湖に持ち込まれ、人為的な放流により全国に分布を拡散した。肉食性で在来水生生物に影響を与えており、2005年に特定外来生物に指定された。300万人とも言われるバス釣り人口産業を背景に持つ。



オイカワ



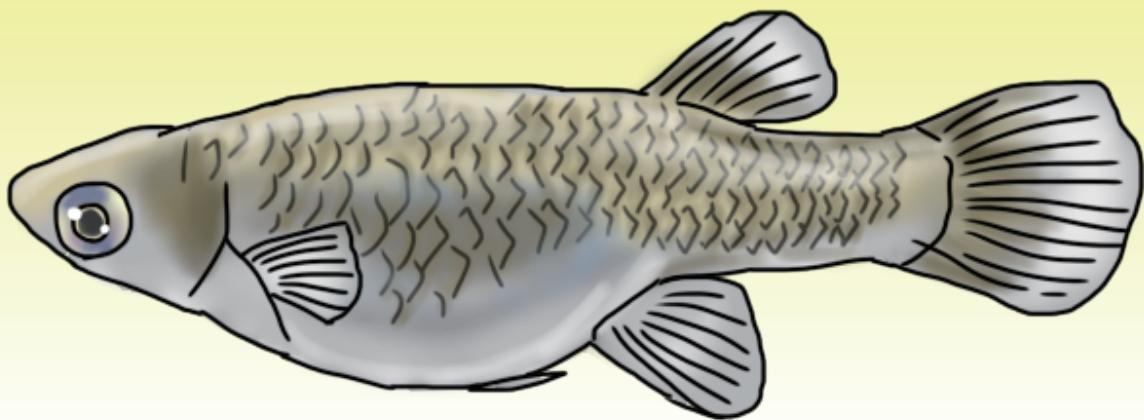
ヨシノボリ

言わざと知れたオオクチバスはブラックバスとも呼ばれ、釣り界隈で人気の高い種類の魚です。肉食性で通常はオイカワ、ヨシノボリ類などの魚類やエビ・ザリガニ類などの甲殻類を主食とし、その他水生昆虫や鳥のヒナまで落下した陸生昆虫や鳥のヒナまで捕食することがあります。

在来種への影響は？

力ダヤシ

Gambusia affinis

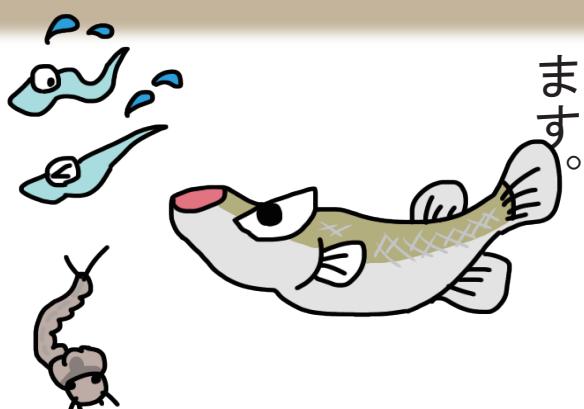


カダヤシ目カダヤシ科

原産地：北アメリカ

全長：3~5cm

メダカに似た姿の、卵胎生の淡水魚。カダヤシとは「蚊絶やし」のことで、日本にはボウフラ駆除のため 20世紀初頭に移入された。攻撃性が強く、他の魚の稚魚や卵を食べる上、繁殖力や環境適応能力が高いため、世界各地で同様に移入されでは外来種問題を引き起こしている。2006年に特定外来生物に指定された。



ボウフラも含み、他の稚魚を捕食する



カダヤシの稚魚は
卵からかえった
状態で生まれる。

カダヤシは攻撃性が強く、在来のメダカをはじめとした、他の在来生物の稚魚や卵を捕食するため、危険性が高いです。加えて、卵胎生（卵を孵化させてから生むこと）であることから、繁殖する可能性が他の生物と比較すると、高いといえます。

在来種への影響は？

カミツキガメ

Chelydra serpentina subsp



カメ目カミツキガメ科
甲長：最大 50cm

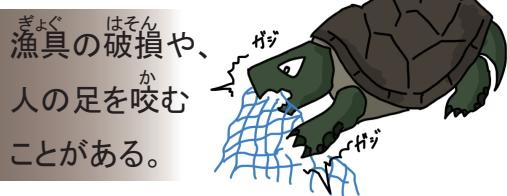
原産地：北アメリカ

1960 年代頃からペットとして輸入されるようになった。大型で力が強く、寿命も長いため、野外に放逐されるようになり、90 年代頃から、各地で目撃例が増え、2005 年には特定外来生物に指定された。千葉県の印旛沼流域では広範囲にわたって多数の個体が定着、繁殖しており、県独自の捕獲事業が行われている。



ワニガメ

カミツキガメより大きなワニガメという種類のカメもいますが、カミツキガメより拡散はまだしていない。



漁具の破損や、人の足を咬むことがある。

カミツキガメは雑食性ですが、幼体は肉食傾向が強いです。千葉県には、キンブナや、シマドジョウといった絶滅危惧種がいるため、生存が危険にさらされます。加えて、カミツキガメは名前の通り、人に咬みつく、漁具の破損のような人的被害の方が大きいと言えます。

在来種への影響は？

クサガメ

Chinemys reevesii

No.11

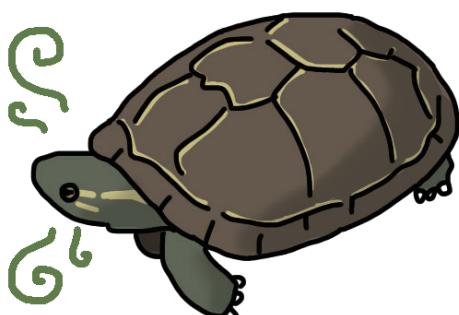


カメ目イシガメ科

原産地：中国、朝鮮半島

甲長：10~30cm

河川の中・下流域を中心^{かりゅういき}に生息する、雑食性のカメ。日本全国に広く分布するが、近年の研究により、江戸時代に朝鮮半島から持ち込まれた外来種である可能性が高いことが示されている。また、ペットとしても大量に流通しており、中国由来の輸入個体^{ゆりゅうこたい}が野外に数多く遺棄、拡散していると思われる。



クサガメの由來

クサガメは危険を感じると臭腺^{きげん}から臭いを出すことからこの名前が付けられた。

×「草亀」→○「臭亀」

クサガメは性格はおとなしい方ですが雑食性なため、在来水生生物、水生昆虫などを捕食する危険性があります。

また、クサガメの大きな問題として挙げられるのが、在来種のカメとの交雑^{こうざつ}が懸念^{けねん}されています。交雑することにより、純血^{じゅんけつ}の在来生物が減少^{げんしゅう}する可能性があります。

在来種への影響は？

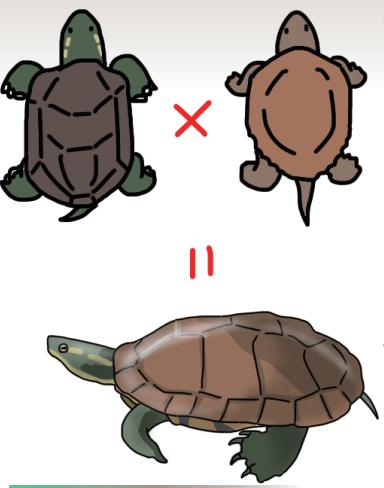
本当は在来種だと思われていた!?

本

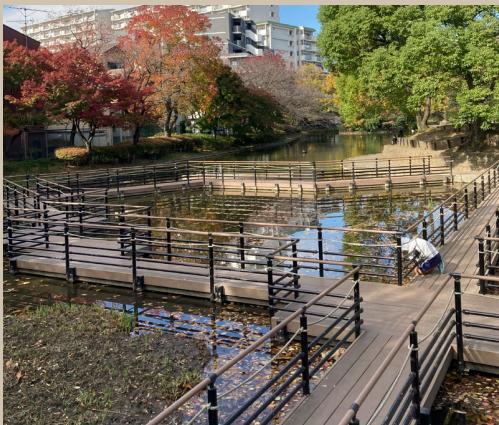
無理はありません。

クサガメは、これまでの外来種の中では比較的、温厚なおとなしい性格の生き物と言えます。加えて、人になつきやすいため、ペットとしても人気の高い種類のカメです。

人気とともに分布も広いクサガメは、在来種であると思われていましたが、近年の研究により、実は外来種だということが判明しました。江戸時代という時代から存在した外来種はそう多くはありません。性格等も温厚なため、在来種と思い込んでいたのも、

クサガメ（外来）イシガメ（在来）

誕生していることです。
より、雑種であるウンキュウが
その一ホンイシガメとの交雑に
カメが生息しています。そして、
ウンキュウ

～観察の記録～



平和の森公園（ひょうたん池）

〒143-0005 東京都大田区平和の森公園 2番1号

TEL:03-3766-1607

巨大なアスレチックがあり、近くには「大森海苔のふるさと館」や「大森ふるさと浜辺公園」などもあり、大人から子どもまで楽しめます。



ひょうたん池には様々な大きさのクサガメが確認されました。この池で繁殖がされていると思われます。

クビアカツヤカミキリ

Aromia bungii



コウチュウ目カミキリムシ科 原産地：中国、台湾、
全長：22~38mm 朝鮮半島、ベトナム

全体は光沢のある黒色。前胸背板は赤色で側面に頑丈なとげ状の瘤を一対もつ。触角は黒色で体長と同じ長さもしくは若干長い。オスの方が体は小さく、触角の比率が大きい。中国ではモモやスモモの大害虫であり、日本では2012年に愛知県での確認以来、各地で見つかりはじめた。



フラス

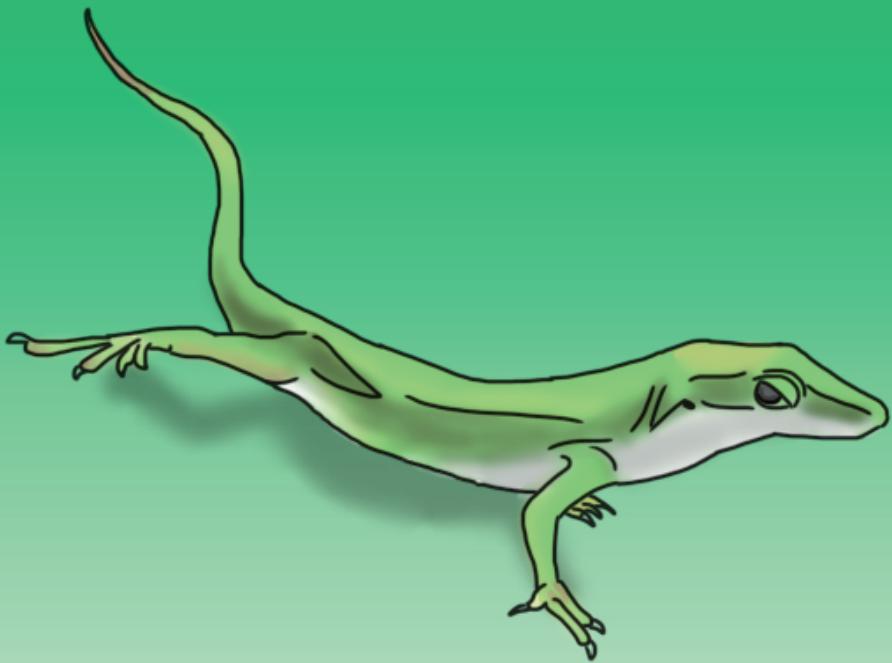
クビアカツヤカミキリが食入した樹木には「フラス」と呼ばれる木くずとフンが排出される。樹木にもよるが、オレンジ色に近い。

クビアカツヤカミキリの幼虫は、サクラ、ウメ、カキ、モモ、ボプラなどの樹木に寄生して弱らせたり、枯死の原因に繋がります。東京などの公園や市街地にも侵入してきたため、対策が練られています。生物に対する被害ではなく、主に植物に対する被害が大きいといえます。

在来種への影響は？

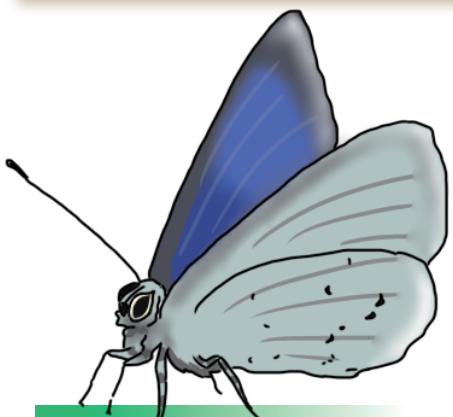
グリーンアノール

Anolis carolinensis



有鱗目イグアナ科 原産地：アメリカ合衆国南東部
全長：12~20cm

樹上性のトカゲ。日中に行動する。体色は基本的に緑色だが、ごく短時間で変化させることができる。1960年代に小笠原諸島の父島に持ち込まれ、80年代には母島や沖縄本島にも移入された。父島と母島では小笠原固有の昆虫の生息に壊滅的な打撃を与えた。2005年、特定外来生物に指定された。



オガサワラシジミ



アノールの影響か？

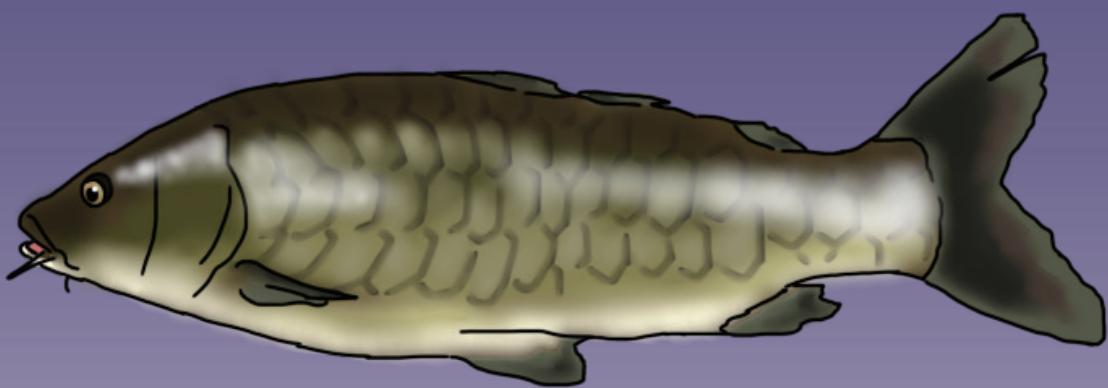
小笠原諸島には多くの固有種が生息していますが、特に昆虫類に対する被害は大きいと言えます。中でも「オガサワラシジミ」は、グリーンアノールの影響で絶滅に近い状態にあります。

グリーンアノールは、元々ペントとして持ち込まれましたが、それが脱走または遺棄により、分布が拡散しました。

在来種への影響は？

コイ (鯉)

Cyprinus carpio

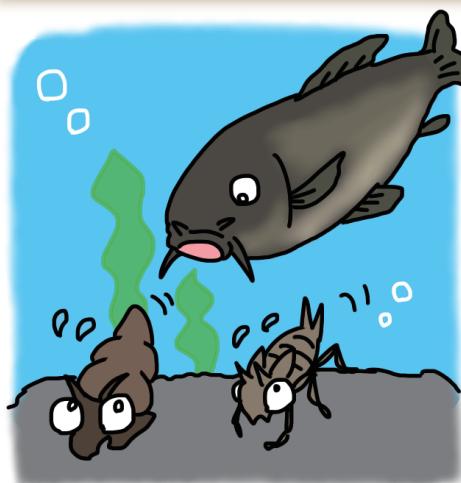


コイ目コイ科

原産地：東欧、ユーラシア

全長：50~100cm

最もよく知られる淡水魚である。日本国内には、在来のコイと、大陸から移入されたコイがあり、両者には別種に相当するほどちがいがあることが分かっている。古くから様々な目的で数多くの水域に放流されているが、それにより遺伝子汚染、貪食なことによる生態系への影響が問題となる。



錦鯉も外来種に値する場合がある。品種改良によって、色素が変化したもの。

コイは、流れのゆるやかな淵や落ち込みの底層部、砂泥底を主な生息場所とします。そのため、低層部のタニシ類や、トンボの幼虫などを捕食します。他にも水質汚染と、遺伝子汚染が在来種への影響が懸念されています。

在来種への影響は？

言わざと知れたコイも実は一部外来種にあたります。

シロツメクサ

Trifolium repens

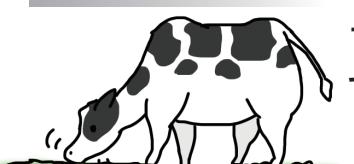


双子葉・離弁花類 マメ科 原産地：ヨーロッパ
高さ：10~15cm

ジャクソウ属の多年草。クローバーの名で知られる。日本には、1840年代にオランダ船の運んできたガラス器の緩衝材として持ち込まれたのが最初とされる。明治時代以降、牧草、緑肥、緑化などの目的に積極的に用いられ、やがて野生化し、日本全国の草地や農耕地、道端などに広がった。



緩衝材として
日本へ来る



家畜が食べ
過ぎると有害

植物にも、外来種が存在します。シロツメクサの名前の由来は、緩衝材の役割から来てています。日本語の「白い詰める草」が由来です。

葉の部分がクローバー状のため、クローバーとして呼ばれることもあります。

シロツメクサは、在来の植物との競合にもなりますが、農作物への被害が大きいです。加えて家畜が多量に食すとシアノ化合物が多い害になる恐れがあります。

在来種への影響は？

スクミーリングガイ

Pomacea canaliculata



盤足目 リンゴガイ科
殻高 : 50~80mm

原産地 : 南アメリカ

ジャンボタニシと通称され、形態もタニシと似ているが、タニシ科の貝ではない。日本には1980年代に台湾経由で食用として移入され、関東以西の各地で野外に拡散中である。繁殖力の強さと環境適応能力が高く、水田でイネを食害し大きな問題となっている。またタニシよりも速く這うことが可能である。



うるいど自然公園

〒290-8501 千葉県市原市国分寺台中央
1丁目1番地1
TEL:0436-22-1111
水辺がきれいな自然公園です。

スクミーリングガイの卵はピンク色で毒を持ち、外敵から襲われにくいです。

スクミーリングガイは、ジャンボタニシと呼ばれ、主に水田などによく見られます。そのため農作物に対する被害が大きいです。九州を中心に、稻、レンコン、イグサなどの農作物を食害しています。

在来種への影響は?

セアカゴケグモ

Latrodectus hasselti



クモ目 ヒメグモ科

原産地：オーストラリア

体長：♂3~6mm、♀7~10mm

成熟したメスの腹部にはよく目立つ赤い斑紋がある。神経毒を有する毒グモだが、日本国内での死亡例はない。建物や人工物などの隙間に棲み、不規則な網を張る。性質はおとなしく、攻撃性はない。日本では1995年、大阪府で最初に発見され、のちに全国に広がった。2005年に特定外来生物に指定された。



こんな場所に注意！

- ・エアコンの室外機の下
- ・自動販売機の下
- ・ブロックやフェンスの隙間
- ・排水溝のふたの裏や側面

セアカゴケグモは建築資材などに紛れこんで、日本に意図せず侵入しました。

在来種に対する被害ではなく、人^{じん}的^{てき}被害の方^が大きいと言えます。強力な毒^{しつ}を持つており、建物などを好むため、かなり身近な場所に居るので危険です。下手に触らないことを心がけましょう。

在来種への影響は？

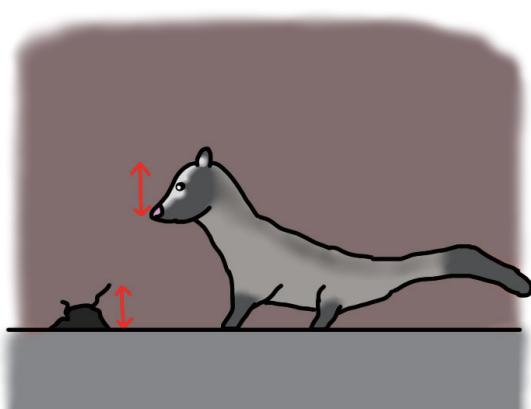
ハクビシン

Paguma larvata



食肉目 ジャコウネコ科 原産地：中国南部、台湾
頭胴長：60cm~65cm ヒマラヤ、東南アジア

日本に生息する唯一のジャコウネコ科の哺乳類。雑食性かつ夜行性で木登りや泳ぎも得意。日本においては、長く外来種か在来種かの議論があったが、現在では外来種にほぼ間違いないとされている。江戸時代に持ち込まれた記録があり、戦時に使用する毛皮用に持ち込まれた。



ハクビシンは、些細な隙間から建物内へ侵入することが可能。頭と同じ大きさの穴であれば、簡単に侵入することができるので注意。

雑食性なため、在来種への影響は、昆虫類や魚類、タヌキなどに対する被害がありますが、人的被害のほうが大きいです。人家への侵入や、特に農作物への被害が大きいです。

ハクビシンは、野良猫の様に住宅街や、畠の様な場所で見かけることもあります。

在来種への影響は？

ハクレン

Hypophthalmichthys molitrix



コイ目 コイ科
全長：100cm

原産地：東アジア

口よりも目が下にあるのが特徴的な、植物性プランクトン食のコイ科の大型魚。ソウギョ、アオウオ、コクレンとともに中国では古くから養殖され、「四大家魚」と呼ばれる。四大家魚は、日本には1878年に最初に移入され、第二次世界大戦中に食糧増産のため本格的に移入、放流された。いずれも、食用では定着しなかった。



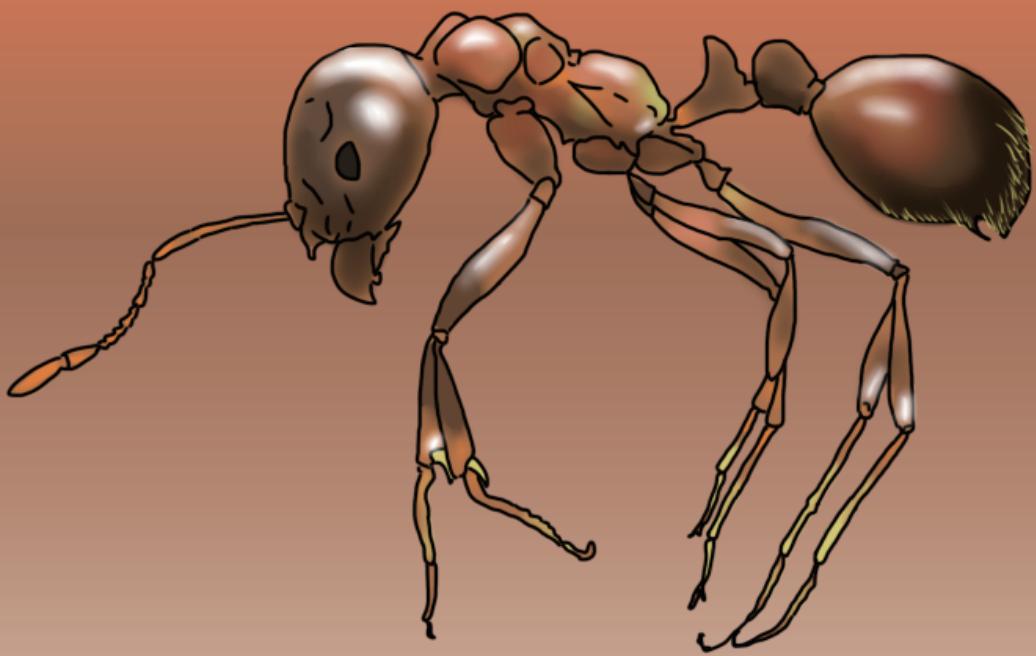
**おくびょう
臆病なハクレン**
ハクレンはとても臆病で、驚くと水面からジャンプする特徴がある。他のハクレンのジャンプで驚き、連鎖が起こる。

在来魚類への影響はそれほど大きくないです。手賀沼ではハクレンの増殖とともに、今まで浮遊植物を食べていたゲンゴロウブナ（手賀沼のものは外来個体群）が底生動物食に変わり、個体数も減少した、という事例が報告されています。都内の荒川などでも釣れ、水面からジャンプするものが特徴的です。

在来種への影響は？

ヒアリ

Solenopsis invicta



ハチ目 アリ科

原産地：南米中部

体長：2.5mm~6mm

アメリカでは 1930 年ごろにヒアリの侵入が確認され、船荷に
ともなって持ち込まれたと考えられている。体は赤茶色をして、ツ
ヤがあり、尻尾の方に毒針を持つ。オスには翅が付いている。
日本には、2017 年6月に初めて確認された。繁殖力が高く、
一度定着すると、根絶するのは極めて困難になる。

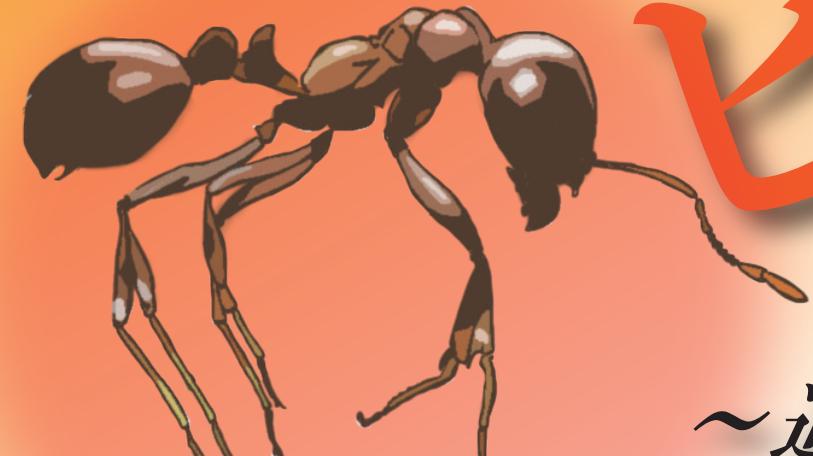
ヒアリは公園、芝生、緑地、水辺、田畠などの日本に存在するあらゆる場所を好みます。在来種のアリとの競合や小動物への攻撃、農作物への被害が懸念されますが、人的被害が最も大きいとされています。



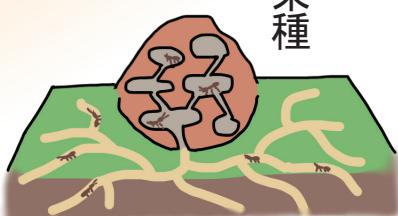
ヒアリとセアカゴケグモ

ヒアリとセアカゴケグモではヒアリの方が危険といえる。攻撃性が高く、日当たりの良い場所を好み、繁殖力も高いことから、人と出くわす機会が圧倒的に多い。

在来種への影響は？



ヒアリは、アリ塚と呼ばれる大きな巣を作ります。日当たりの良い場所で土を掘り出して巣を作り、地上から見た際は、砂の山の様に見えます。巣が大きく日立つまでは、2~3年かかり、その場合、ヒアリの繁殖が進んでいるため、根絶が困難になります。



アリ塚の構図

もういふ 猛威を振るう ヒアリ

ついきゅうへん
~追究編~

日本でヒアリが出現し、問題になっていますが、正しい知識を付けて、焦らず柔軟に対応することが、今後重要になってきます。

注・1 ヒアリの巣

ヒアリは、アリ塚と呼ばれる大きな巣を作ります。日当たりの良い場所で土を掘り出して巣を作り、

2~3年かかり、その場合、ヒアリの繁殖が進んでいるため、根絶が困難になります。

また、日本の在来種のアリで、アリ塚を作るアリは存在しません。

万が一、刺されてしまった場合は、20~30分程度刺された場所に保冷剤や冷たいタオルを当て、様子をみましょう。容体が変化した場合は、医療機関の診断を受けるようにしましょう。

注・2 対処法は?

ヒアリを見つけた際は、決して触ったり、巣を刺激してはなりません。野外で発見した場合は、環境省に連絡し、屋内で発見した場合は、市販の殺虫スプレー等で処理を行いましょう。

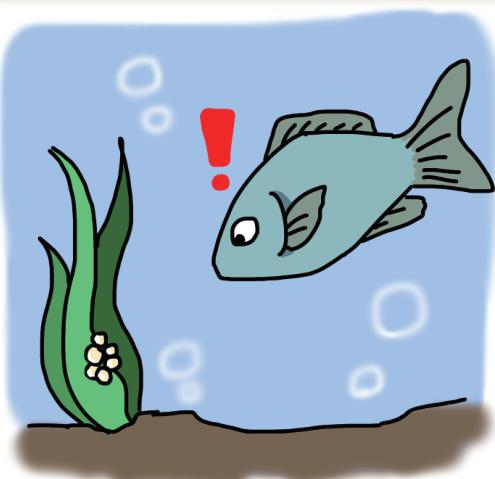
ブルーギル

Lepomis macrochirus



スズキ目 サンフィッシュ科 原産地：北アメリカ
全長：20cm

日本には1960年に移入された。「ブルー」というのは、エラ蓋の部分の青い斑紋に由来する。肉食寄りの雑食で繁殖力が極めて旺盛、汚染にも強く、自分の卵は守り他の魚の卵は食べてしまうなどの性質から、生態系に与えるダメージはブラックバス(p.14)よりもむしろ上だと考えられている。



カダヤシ (p.15) より大きく、
食欲も旺盛なため、危険度は
魚類でもトップクラスといえる。

ブルーギルは現在、ほぼ日本全国に拡散をしています。環境に適応する能力も高く、肉食寄りなため、生態系に大きなダメージを与えていているのは間違いないありません。被害が大きい在来種は、メダカ類、タナゴ類、モロコ類といった、ブルーギルと同じ環境に生息する魚類が主に対象となっています。

在来種への影響は？

ブルーギルは、1960年に日本に持ち込まれましたが、その経緯は他の外来種と比べ、極めて特殊です。

当時の皇太子殿下が訪米した際に手みやげとして持ち帰ったものを、水産庁が各地の試験場などに分与したという説があります。

あります。その後各地で放流されたという可能性もあります。また、養殖のために放流した種苗に、ブルーギルが混入していたという例もあります。

歴史はオオクチバスより浅いですが、在来種への脅威はオオクチバスより大きいと言えます。

ブルーギルの歴史と現在

観察の記録～千葉県口マンの森共和国～

千葉県にあるロマンの森共和国、という溪谷では、哺乳類や、昆虫、爬虫類と様々な生物が生息していました。その中でも魚類に注目すると、外来種はこのブルーギルのみ発見されま

した。他に確認できた生物はシマドジョウやギバチといった千葉県では絶滅危惧種にあたる生物でした。今後、このブルーギルが増え続けば、在来生種の数がより減少すると考えられます。幸いにも、ザリガニやウシガエルは確認されていません。



千葉県ロマンの森共和国

〒292-1179 千葉県君津市豊英 659-1

TEL:0439-38-2211

キャンプ場やコテージ、いずれも季節と自然を生かした遊びを満喫できます。



ギバチの稚魚も確認できました。

ミシシッピアカミミガメ

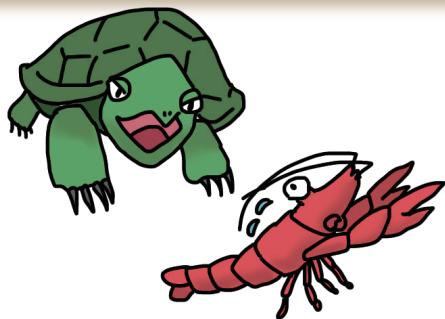
Trachemys scripta elegans



カメ目 ヌマガメ科
甲長 : 15cm~30cm

原産地 : アメリカ合衆国南部
～メキシコ北部

幼体は「ミドリガメ」と呼ばれる。1950年代以降、ペットとして大量に輸入・飼育され、のちに逸走あるいは放流された個体が日本全国の野外に定着した。在来のカメに比べ大柄で繁殖力が強く、汚染に対する耐性も勝っており、在来種のカメの生息に影響を与える、またレンコンなどへの農作物への被害も報告されている。



数少ない捕食者
ミシシッピアカミミガメ(ミドリガメ)はアメリカザリガニの数少ない捕食者といえる。しかし、双方外来種のため、根本的な問題の解決にはならない。

多くの場合は、ペットとして飼育された個体が多く放流されたことにより、生息地を拡大させています。雑食性ですが、特にエビ類や魚類、観賞用のハスなどにも影響が出ています。

ミシシッピアカミミガメはよく「ドリガメ」と呼ばれ、日本で最もよく知られているカメではないでしょうか。

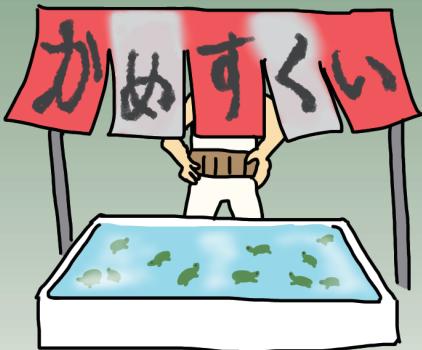
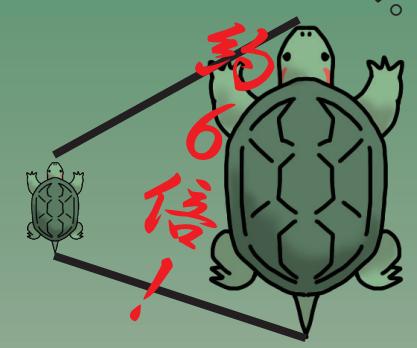
在来種への影響は?

流通した経緯

ミドリガメは、カメの中でもペットとして最も流通している種類です。もちろんペットショップなどでも取り扱われていますが、お祭りの屋台で見かけたことがあります、どうか?

「かめすくい」で扱われているカメのほとんどは「ミドリガメ」です。そしてそのかめすくいのカメは幼体がほとんどです。

幼体のミドリガメの大きさは約5センチ程度です。成長すると最大で約25~30センチ程まで成長します。さらに平均寿命は25年程とされています。飼育する場合は長い責任を伴います。

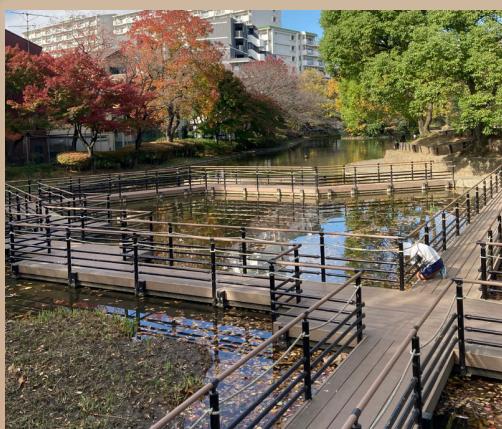


The



代表的なカメ。
実は外来種だった！

ミドリガメ
ミシシッピアカミミガメ



平和の森公園（ひょうたん池）

〒143-0005 東京都大田区平和の森公園 2番1号

TEL:03-3766-1607

巨大なアスレチックがあり、近くには「大森海苔のふるさと館」や「大森ふるさと浜辺公園」などもあり、大人から子どもまで楽しめます。

～観察の記録～



平和の森公園のひょうたん池にて二種類のカメが確認されました。さらに、「タウナギ」という朝鮮半島原産のウナギも確認されました。ひょうたん池では、在来種の水生生物の生存がかなり厳しいと思え、アズマヒキガエルやフナなどが在来種として確認されました。

マンガース（フイリマンガース）

Herpestes auropunctatus

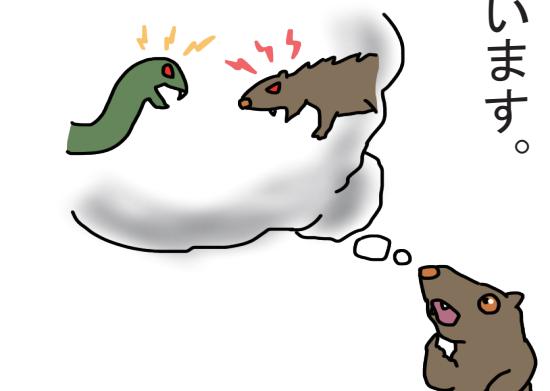


食肉目 マンガース科 原産地：ミャンマー、中国南部
頭胴長：25cm~37cm

1910年頃、沖縄にネズミやハブの駆除を目的として島の南部に放
しゆう 獣され、奄美大島でも、おそらくハブ駆除のために奄美市赤崎に
放じゆう 獣されたのちに生息が拡散した。昼行性で群れを作らず単独で地
上の巣穴で生活する。アマミノクロウサギなどの巣穴に入り餌の探
索をする。雑食性で昆虫、哺乳類、爬虫類、果実などを食す。

ハブとマンガースでよく知られるマンガースも元々は外来種です。ハブの駆除のために持ち込まれましたが、ハブは攻撃性が高く、マンガースとは反対に夜行性で相性が良くないことがあります。また、マンガースは危険を伴わない在来種の生物や農作物を捕食するようになり、問題となっています。

在来種への影響は？

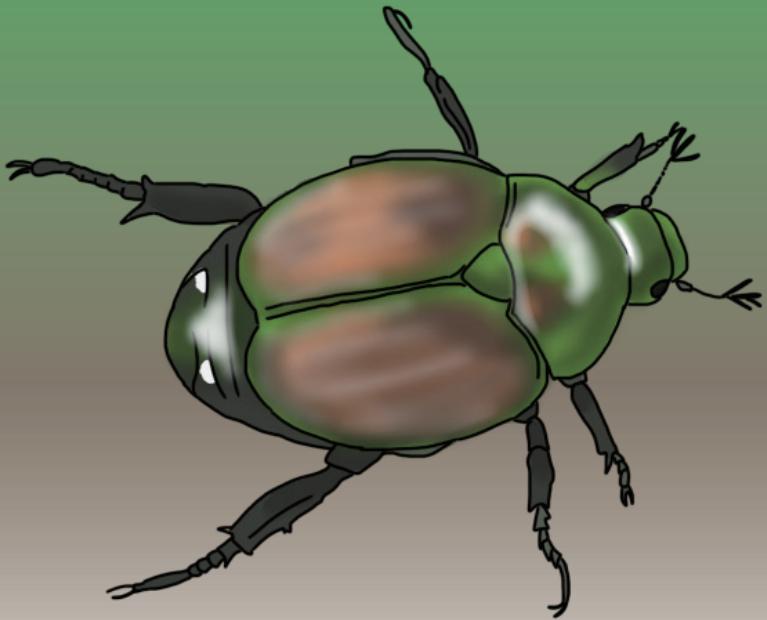


リスクが少ない方を選ぶ



マメコガネ

Popillia japonica

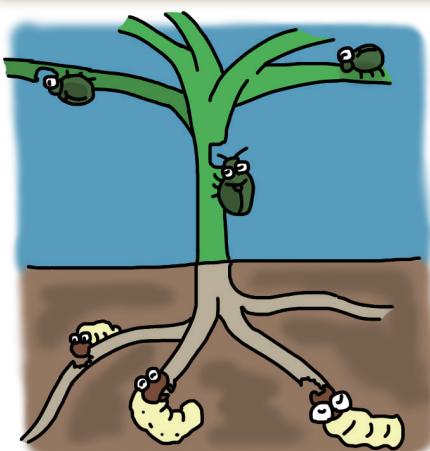


コウチュウ目 コガネムシ科

原産地：日本

体長：10mm~15mm

日本固有種。マメに限らず、様々な植物に寄生し、成虫は葉を、幼虫は根を食べる。1910年代前半に、おそらくは、植物の根に付着してアメリカに非意図的に移入され、定着した。アメリカでは爆発的に繁殖して農作物に大きな被害を与えて問題となった。現在ではヨーロッパにも移入されている。



一つの植物で生きる

幼虫は、植物の根を食べ、成虫は葉を食べて成長する。

一つの植物で一生を過ごせるため、繁殖は安易だと思われる。

海外にも日本原産の外来種が存在します。日本では野外の植物に多く、害虫とされていませんが、主にアメリカを中心とした海外では、「ジャパニーズ・ビートル」と呼ばれ、農作物への被害が多くでています。また、他の生物への被害はそれほど大きくは無いため、人的被害を及ぼす外来種と言えます。

在来種への影響は？

ま とめ

これまで多くの外来種の生物を紹介しました。これらは日本に生息する外来生物の一部であり、まだ存在します。

在来種に影響を与える生物もいれば、ヒアリの様に人の健康や生活、農作物に被害を与える生物もあります。

これ以上新たな外来種問題を増やさないためにも守るべき3つの予防三原則があります。特に、ペットとして外来種を飼育する場合は、最後まで責任を持つことが重要です。

1. 入れない
2. 捨てない
3. 拡げない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」。

飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」
(逃がさない・放さない・逸出させないことを含む)。

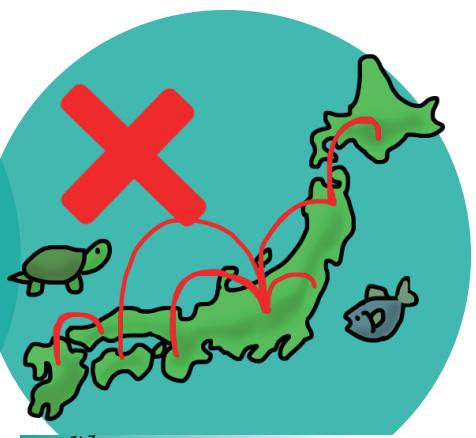
すでに野外にいる外来種を他地域に「拡げない」(増やさないことを含む)。



・入れない



・捨てない



・拡げない

外来種の生き物は、

決して悪くない。

ほとんどは人の手によって始まったことなのだ。

人の勝手な行動が自らを苦しめ、
みずか くる

在来種の生き物を苦しめる。
くる

これは、私たち人間の問題であり、

それを解決するのもまた人間だ。
かいけつ

同じ過ちを繰り返さないためにも、
あやま く かえ

この外来種の問題と

われわれ しんけん む
我々は真剣に向き合うべきなのだ。



【制作者】 酒巻太一

1998年東京都大田区生まれ。目白大学社会学部メディア表現学科出身。平山ゼミ所属。小さい頃から生き物に精通し、中高時代は部活に励み、大学時代は友人と共に生物観察に注力する。



在来種から見た外来種の脅威

発行 2020年12月

制作 酒巻太一 目白大学 社会学部 メディア表現学科 平山ゼミ

印刷 冊子印刷社



目白大学 社会学部 メディア表現学科 平山ゼミ所属 著:酒井太一